

水防災授業 教材説明書【共通版】

中学校向け

1. 教材の種類

教材には、

- ・1時間バージョン、リンク集・素材集
- ・3時間バージョン

があります。

【1時間バージョン】

- ・水防災授業の導入のための授業や、マイ・タイムライン※作成を通して「水害時にいつ、どんな情報を入手し、どんな行動をとるか」に特化した授業を、1コマ(50分)で行うことを想定した授業案、テキスト、授業用資料です。
- ・リンク集・素材集は、1時間バージョンの授業で紹介される情報や資料の抜粋・詳細版、および公表資料が掲載されているURL集です(一部は3時間バージョンの授業でも紹介されています)。1時間バージョンの補完用に、「防災情報を取り扱う教科・単元についての参考資料(本資料P3～)」を参考にして理科・社会・技術の授業の関連する単元で活用いただくための資料です。

※マイ・タイムライン : 住民一人ひとりのタイムラインで、災害(本教材では水害を対象)の発生を前提に、自分自身が「いつ」「何をするか」に着目して、防災行動を時系列的に整理したもの。

参考:みんなでタイムラインプロジェクト(国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所)

<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>

【3時間バージョン】

- ・1時間バージョンの発展版として、避難情報の意味や入手手段、避難行動を阻害する人間心理、避難行動を起こすタイミングについて学ぶ授業を、3コマ(50分×3コマ)で行うことを想定した授業案、テキスト、授業用資料等です。

1時間バージョンの「マイ・タイムライン」の学習用スライドと、3時間バージョンの「避難行動を起こすタイミング」の学習用スライドは、内容が一部重複しています。

1時間バージョンの実施後に、3時間バージョンの授業を行う場合は、スライドに導入された動画の視聴は必要に応じて行い、代わりに議論や発表の時間を十分にとるなど、授業案を改変することを推奨しています。

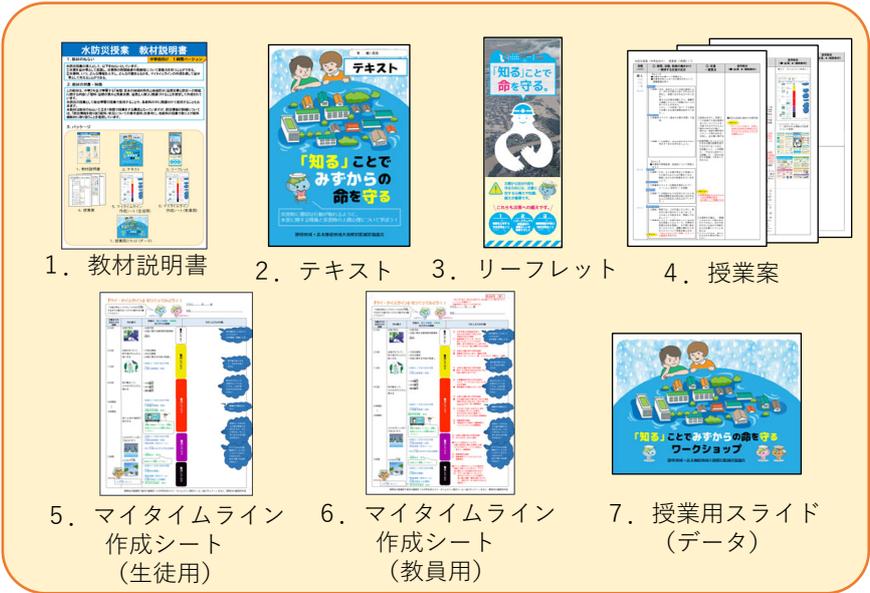
2. 教材の活用方法

1時間バージョン、3時間バージョンともに、授業案を提供していますが、授業の流れ・発問・使用する資料等は自由に改変して使用いただくことができます。

また、限られた授業時間内で多くの情報を取り扱うことが困難な場合は、理科・社会・技術の授業などでの関連する単元において、横断的に取り扱うことを推奨しています。

3. パッケージ内容

【1時間バージョン】



1. 教材説明書 2. テキスト 3. リーフレット 4. 授業案

5. マイタイムライン作成シート (生徒用) 6. マイタイムライン作成シート (教員用) 7. 授業用スライド (データ)

【3時間バージョン】



1. 教材説明書 2. テキスト 3. ワークシート 4. リーフレット

5. 近年水害概要シート 6. タイミングシート 7. 授業用スライド (データ)

8. 授業案 9. モデル校の事例

4. お問い合わせ

この教材に関する問合せは、下記まで連絡をください。

〈お問合せ〉 国土交通省 静岡河川事務所 調査課 TEL 054-273-9104

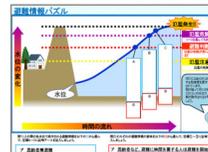
作成：静岡地域・志太榛原地域 大規模氾濫減災協議会

市役所・町役場窓口		国・県 担当窓口
静岡市	河川課 054-221-1131	静岡土木事務所 054-286-9321
島田市	危機管理課 0547-36-7143	島田土木事務所 0547-37-5272
牧之原市	防災課 0548-23-0056	
藤枝市	河川課 054-643-3516	中部地域局 054-644-9168
吉田町	防災課 0548-33-2164	静岡河川事務所 054-273-9104
焼津市	河川課 054-626-1118	
川根本町	建設課 0547-56-2227	長島ダム管理所 0547-59-1021

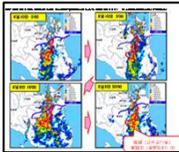
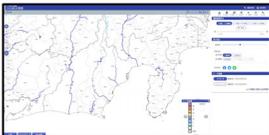
本資料は、静岡地域・志太榛原地域大規模氾濫減災協議会が作成・提供する、「水防災教育用リンク集・素材集」を活用いただきたい対象教科とその内容を示したものです。

教科	中学校学習指導要領より 青字：各教科書の関連する単元・学習の内容（指導計画作成用資料より）		活用いただきたい リンク・素材
	改訂（平成29年告示）	現行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	
【社会】 （地理）	<p>第2節 社会</p> <p>第2 各分野の目標及び内容 〔地理的分野〕</p> <p>2 内容 (2) 日本の地域的特色と地域区分 次の①から④までの項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>① 自然環境 ② 人口 ③ 資源・エネルギーと産業 ④ 交通・通信</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。</p>	<p>第2節 社会</p> <p>第2 各分野の目標及び内容 〔地理的分野〕</p> <p>2 内容 (2) 日本の様々な地域 (ア) 自然環境 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。</p> <p>教育出版：第2編 日本のさまざまな地域 第2章 世界から見た日本のすがた ⑤自然がもたらす災害と向き合う ⑥災害から身を守るために</p> <p>帝国書院：第2部 日本のさまざまな地域 第2章 世界と比べた日本の地域的特色 5 日本のさまざまな自然災害 6 自然災害に対する備え</p> <p>東京書籍：第2編 日本の姿 第2章 世界から見た日本の姿 1節 世界から見た日本の自然環境 5 自然災害と防災への取り組み</p>	<p>・水害とは、全国の水害事例 ：素材01_水害とは、水害が発生する要因</p>  <p>・地域の浸水リスク 洪水ハザードマップ ：ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/ 洪水浸水想定区域図 ：安部川 https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/bousai/shinsui/pdf/map_abe2.pdf ：大井川 https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/bousai/shinsui/pdf/map_ooi2.pdf ：静岡県管理河川 https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-320/measures/shinsuisoutei.html</p> <p>・洪水から身を守るために（避難情報について） ：素材07_避難情報の伝達のされ方</p>  <p>・自助の取組 ：素材11_マイタイムラインをつくってみよう</p> 

本資料は、静岡地域・志太榛原地域大規模氾濫減災協議会が作成・提供する、「水防災教育用リンク集・素材集」を活用いただきたい対象教科とその内容を示したものです。

教科	中学校学習指導要領より 青字：各教科書の関連する単元・学習の内容（指導計画作成用資料より）		活用いただきたい リンク・素材
	改訂（平成29年告示）	現行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	
【社会】 （公民）	<p>〔公民的分野〕 2 内容 A 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色 (7) 現代日本の特色として少子高齢化，情報化，グローバル化などがみられることについて理解すること。</p> <p>（内容の取扱い：（ア）「情報化」については、～中略～ 災害時における防災情報の発信・活用などの具体的事例を取り上げたりすること。）</p>	<p>〔公民的分野〕 2 内容 (1) 私たちと現代社会 ア私たちが生きる現代社会と文化 現代日本の特色として少子高齢化，情報化，グローバル化などがみられることを理解させるとともに，それらが政治，経済，国際関係に影響を与えていることに気付かせる。</p> <p>教育出版：第1章 私たちの暮らしの現代社会 第1節 私たちが生きる現代社会 ① つながる私たちと世界</p> <p>帝国書院：第1部 私たちと現代社会 第1章 私たちの生きる現代社会について考えよう 3 情報化が進む現代</p> <p>東京書籍：第1章 現代社会と私たちの生活 1節 現代社会の特色と私たち 2 情報化—情報が変える社会の仕組み</p>	<p>・インターネット等での防災情報発信と活用方法 ：素材03_川の防災情報で降雨分布を観察する</p>  <p>素材04_サイボスレーダーで河川の水位を観察する</p>  <p>素材06_川の水位情報で身近な箇所の水位を観察する</p>  <p>素材07_避難情報の伝達のされ方</p>  <p>素材08_避難情報の意味と、発令される時の川の水位</p> 
【技術・家庭】 （技術）	<p>第8節 技術・家庭 第2 各分野の目標及び内容 〔技術分野〕 2 内容 D 情報の技術 (1) 生活や社会を支える情報の技術について調べる活動などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 情報の表現，記録，計算，通信の特性等の原理・法則と，情報のデジタル化や処理の自動化，システム化，情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること。</p>	<p>第8節 技術・家庭 第2 各分野の目標及び内容 〔技術分野〕 2 内容 D 情報に関する技術 (1) 情報通信ネットワークと情報モラルについて，次の事項を指導する。 ア コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知ること。 イ 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知ること。</p> <p>開隆堂出版：D 情報に関する技術 1 情報とわたしたちの生活 2 情報通信ネットワークの利用</p>	

本資料は、静岡地域・志太榛原地域大規模氾濫減災協議会が作成・提供する、「水防災教育用リンク集・素材集」を活用いただきたい対象教科とその内容を示したものです。

教科	中学校学習指導要領より 青字：各教科書の関連する単元・学習の内容（指導計画作成用資料より）		活用いただきたい リンク・素材
	改訂（平成29年告示）	現行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	
【理科】	<p>第4節 理科</p> <p>第2 各分野の目標及び内容 〔第2分野〕 2 内容 (4) 気象とその変化 身近な気象の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(I) 自然の恵みと気象災害 ㊸自然の恵みと気象災害 気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること</p> <p>(7) 自然と人間 自然環境を調べる観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ア) 生物と環境 ㊸地域の自然災害 地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。</p>	<p>第4節 理科</p> <p>第2 各分野の目標及び内容 〔第2分野〕 2 内容 (4) 気象とその変化 身近な気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いださせるとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。</p> <p>【(7)のイの(ア)より移行】 (ア) 自然の恵みと災害（再掲） 自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。</p> <p>啓林館：第2学年 [地球]地球の大気と天気の変化 [追]自然の恵みと気象災害（第3学年から移動）</p> <p>大日本図書：2年 単元4 気象のしくみと天気の変化 4章 日本の気象 ● 自然のめぐみと気象災害（移行措置）</p> <p>(7) 自然と人間 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。 イ 自然の恵みと災害 (ア) 自然の恵みと災害 自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。</p> <p>啓林館：第3学年 [環境]自然と人間 3章 自然が人間の生活におよぼす影響 2 自然からの恩恵と自然災害</p> <p>大日本図書：3年 単元6 地球の明るい未来のために 1章 自然環境と人間のかかわり 2 自然環境がもたらす災害</p>	<p>・災害に発展する降雨（天気予報、流域について、線状降水帯について） ：素材02_水害に発展するような注意すべき雨</p>  <p>・水害に備えるための降雨分布の見方 ：素材03_川の防災情報で降雨分布を観察する</p>  <p>・洪水時の川の様子 ：素材05_川の水位があがったときの様子_瀬戸川、安倍川、大井川（イメージ）</p>  <p>・全国の水害事例 ：素材01_水害とは、水害が発生する要因</p> 